



ESPLANADE



1

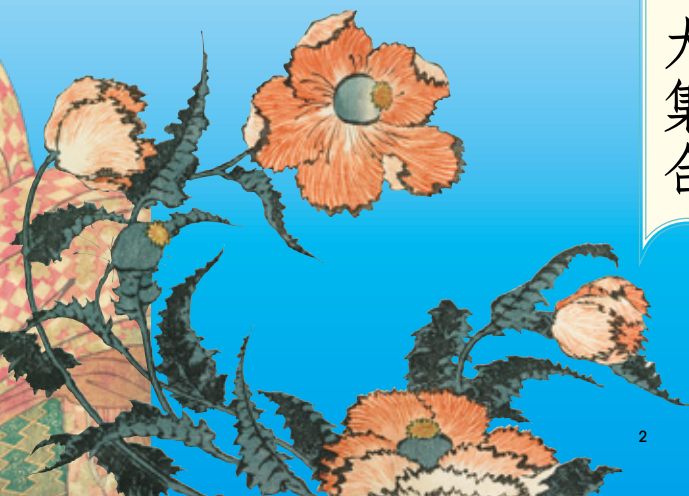


FUKUOKA ART MUSEUM



スター
絵師、大集合

3



2

見 て から

読 む か

所蔵品紹介

《墓守》はどこにかざっていますか？
 —2019年3月21日にリニューアルオープンして以降、ご来館の方より最も多かった質問がこれです。リニューアル前は、1階南側入り口そばに常に展示しておりましたが、ロビー回りの彫刻の配置を再検討した結果、リニューアル後は1階に展示していた彫刻をすべて収蔵庫にて保管し、都度展示替えでお見せすることにしておりました。正直言います、リニューアル前はそれほど注目され人気のある作品とは思っていませんでしたので、これほど多くの質問が寄せられたことに驚きました。と、同時に、制作されてから100年以上が経過した近代彫刻の先駆的な作品の魅力が今なお色あせないことを改めて実感しました。

朝倉文夫は、現在の大阪府豊後大野市の出身。東京美術学校（美校）彫刻撰科に進学し彫刻を学びます。彼の才能はすでに在学中より表われていました。初めて出品した第二回文部省美術展（文展）でいきなり最高賞である二等賞を獲得。その後の文展にて7回連続で上位の賞を受賞し、一躍日本彫刻界の若き旗手として注目されました。1916年より文展（1919年より帝国美術院展覧会）の審査員を務め、1919年には美校出身の若手作家による団体「東台彫塑会」を創設して彫刻とその環境を考える試みを実践。1921年には美校教授に就任。1948年には文

化勲章を受章しています。多くの後進を育てたことで知られますが、実娘である摂、響子もまた芸術家となりました。

本作品のモデルとなっているのは、朝倉が美術学校在学中に通学路で毎日のように会っていた墓守のおじいさんです。自然の中に創作の源泉を発見したいと望んだ朝倉は、学生時代の日常風景であったこのおじいさんの姿に注目しました。後ろに手を組み、自然なポーズを取る老人の顔は笑っています。朝倉によれば、「爺さん頗る将棋が好きだ。さうして勝敗を争つてゐる最中に時々何心なく笑ふ。その笑ひ顔がいかにもい」（朝倉文夫『「墓守」について』（談）『美術新報』10巻1号 1911年）といっています。日本の彫刻に大きな影響を与えたロダン作品のような主観的な表現を抑制し、普通の人間の立ち振る舞いの一瞬を客観的にとらえています。ほぼ等身大という堂々たる大きさなのですが、あたかもモデルとなったおじいさんの人柄すら表しているかのよう、鑑賞者にやさしくよりそのような雰囲気を持っており、そのことが、現在も多くの人々を魅了してやまない要因の1つなのかもしれません。

本作品は、「朝倉文夫・摂・響子」（1月17日～4月19日 近現代美術室B）に出品されます。

学芸係長（近現代美術担当）
 山口洋三

読 ん で から 見 る か



「何でもない人」の一瞬のしぐさと注目

《墓守》

朝倉文夫

ASAKURA Fumio

DATA

生没年	1883-1964
制作年	1910年
技法・素材	ブロンズ
サイズ	180 × 50 × 46cm

国芳



6

8. 歌川広重《月に雁》
ミネアポリス美術館蔵
展示期間：2/26-3/22
Photo: Minneapolis Institute of Art

9. 東洲斎写楽《三代目大谷鬼次の江戸兵衛》
シカゴ美術館蔵
展示期間：通期
Photography ©The Arts Institution of Chicago/
Image source: Art Resource, NY

7



3. 喜多川歌麿《婦女人相十品 ポベンを吹く娘》
メトロポリタン美術館蔵
展示期間：2/11-3/1
Image copyright ©The Metropolitan Museum of Art/ Image source: Art Resource, NY

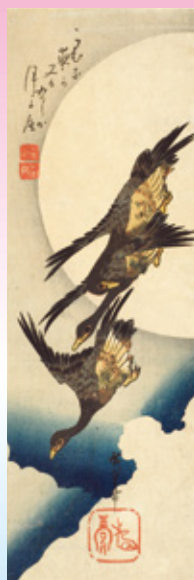
4. 葛飾北斎《富嶽三十六景 神奈川沖浪裏》
ミネアポリス美術館蔵
展示期間：1/28-2/24
Photo: Minneapolis Institute of Art

5. 歌川国芳《其ま、地口猫飼好五十三疋》
展示期間：1/28-2/24

6. 歌川広重《東海道五拾三次之内 庄野 白雨》
東京都江戸東京博物館蔵
展示期間：2/26-3/22

7. 歌川広重《名所江戸百景 大はしあたけの夕立》
東京都江戸東京博物館蔵
展示期間：1/28-2/24

8



4



1. 歌川国芳《宮本武蔵の鯨退治》
展示期間：1/28-2/24

2. 葛飾北斎《芥子》
ミネアポリス美術館蔵
展示期間：2/26-3/22
Photo: Minneapolis Institute of Art

広重



5

写楽

9

CONTENTS

- 00 見てから読むか、読んでから見るか
朝倉文夫
《墓守》
- 04 ミドロドコ？
大浮世絵展
- 06 学芸員と、みてはなし。
吉田博
《日本アルプス十二題 剣山の朝》ほか
- 08 来館者にインタビュー
- 10 REPORT
福岡市美術館開館40周年記念シンポジウム
「インカ・ショニバレ CBEの
パブリックアートと福岡」
- 11 LECTURE / FEATURE
- 12 CALENDAR / TIPS

歌麿

北斎



大浮世絵展

歌麿・写楽・北斎・広重・国芳 夢の競演

江戸の庶民から人気を博し、海外の美術愛好家のハートを射止め、いまでも多くの収集家を持つ「浮世絵」。なぜ浮世絵は、こんなに人の心を掴むのか？ その秘密が分かる（かもしれない）大浮世絵展を開催します。担当学芸員が、本展覧会の見どころをご紹介します。

主任学芸員（古美術担当）後藤恒

歌川国芳
《みかけハコハるがとんだい人だ》
展示期間：2/26-3/22



EXHIBITION INFO

大浮世絵展
— 歌麿、写楽、北斎、広重、国芳 夢の競演
◆会期 2020年1月28日(火)～3月22日(日)
◆会場 2F 特別展示室

喜多川歌麿、東洲斎写楽、葛飾北斎、歌川広重、歌川国芳という5人の人気絵師の代表作を、国内外から集めて一堂に会する大規模な展覧会です。

令和2年、2020年、オリンピックイヤー、明けましておめでとうございます！
国際浮世絵学会の監修による大規模な浮世絵展が、いよいよ当館で開幕します。
本展は喜多川歌麿、東洲斎写楽、葛飾北斎、歌川広重、歌川国芳という、浮世絵の歴史に燦然と輝く5人の絵師にフォーカスし、国内外の美術館、博物館、個人コレクション等から借用した代表的かつ状態良好な浮世絵版画作品で構成されています。歌麿は美人画、写楽は役者絵、北斎と広重は風景画と花鳥画、国芳は武者絵と戯画というように、それぞれの絵師が得意としたテーマに沿って精選された作品群は、総じて約300点。作品保護のため会期中

は展示替えを行い、展示会場には常時約150点が陳列されます。
江戸時代の浮世絵版画は庶民の芸術である上に、安価であっただけに雑に扱われることも多く、制作された数の割に状態良く現存する作品は限られています。そして、その大半は明治期を中心に欧米へ輸出されました。本展は「当時の江戸市民が見た浮世絵の素晴らしさを実感していただきたい」という監修の先生方の強い思いから、日本国内及び欧米各地の所蔵者の協力を得て、各絵師の代表作のうちでも摺り、保存ともに優れた良品が精選されています。5人の絵師が繰り広げる夢の競演は、まさしく浮世絵芸術の醍醐味です。どうぞこの機会をお見逃しなく。

キラ星のごとく輝く
人気絵師の作品がそこここに！



EXHIBITION INFO

同時開催 まぼろしの春画 国貞三源氏
◆会期 2020年1月28日(火)～3月22日(日)
◆会場 2F 特別展示室

歌川国貞による春画の最高傑作『正寫相生源氏』を中心に紹介します。本作は、摺りの技術の高さや、ほぼ全てのページに金・銀・青貝を用いた豪華な仕上げが見どころです。多色摺木版の頂点を極めた超絶技巧を会場でお楽しみください。

《正寫相生源氏》(部分) 嘉永4年(1851)頃

美人画といえ
この人！

歌麿が得意としたのは、人物の上半身をアップにした「大首絵」。特に女性を描いた絵に定評があります。大首にした女性からは、恋に悩み、心をときめかす表情や、ふとした仕草に隠された心の動きなどが伝わってきます。

喜多川歌麿

1753頃
1806



《婦人相学十姉 浮気之相》
ミネアポリス美術館蔵
展示期間 1/28・2/24

葛飾北斎

1760-1849

森羅万象を絵にする

90年の生涯のうち、70年にわたって浮世絵の第一線で描き続けた巨人。《富嶽三十六景》など風景画を中心とした錦絵の連作では、洋風画学習の成果や、動感と緊張感に富む構図など、それまでの試みが見事に開花しています。

歌川広重

1797
1858



《名所江戸百景 亀戸梅屋舗》 東京都江戸東京博物館蔵
展示期間 1/28・2/24

若い頃は多彩なジャンルで制作をしていましたが、北斎の《富嶽三十六景》に刺激を受けてか、風景画を多く手掛けるように。宿場の光景や付近の名所を、抒情的に描く《東海道五拾三次之内》には、広重の魅力が凝縮されています。

東洲斎写楽

(生没年不詳)



Photograph © Museum of Fine Arts, Boston

《市川殿蔵の竹村定之進》
ポストン美術館蔵
展示期間：通期

慧星のごとく現れ、消えた謎の絵師

黒雲母摺りの役者大首絵 28枚で鮮烈なデビューを果たすも、わずか1～2年の活動期間で姿を消し、今でもその正体が議論される写楽。役者の真の姿に迫ろうと顔を誇張した描写には前例がなく、浮世絵界に衝撃を与えました。

《富嶽三十六景 凱風快晴》
東京都江戸東京博物館蔵
展示期間 2/26・3/22



豊かなアイデアで
武者絵や戯画を描く

国芳は、豊かな発想で次々とアイデアを出し続け、幕末の浮世絵界を活性化させた人物。特に勇壮な武者絵や、三枚続の画面にワイドに展開する歴史画や動物を擬人化させて描く戯画は、時代を超えて現代人にも高く評価されています。



《其ま、地口猫飼好五十三疋》 展示期間：1/28-2/24

歌川国芳

1797-1861



DATA

作品名	日本アルプス十二題 劔山の朝
作者名	吉田博
生没年	1876-1950
制作年	1926
技法・素材	木版・紙
サイズ	37.2 × 25.2cm

EXHIBITION INFO

近代美術と九州 第4期

- ◆会期 2020年1月28日(火)～4月19日(日)
- ◆会場 2F 近現代美術室 A



米村奈穂さん
山に登りつつ、
ライターの仕事を行う。



見て話した人

学芸員 × 山ガール

学芸員(近現代美術担当) 忠あゆみ

専門は日本近現代美術。

忠 かつて

の日本では、信仰の対象としての理想化された山や、風光明媚な名所を描く習慣はありましたが、近代になってヨーロッパから

レジャーとしての山登りが入ってきてから、見たままの景色が描かれ始めました。吉田は、浮世絵と同じ技法で、まずは輪郭を線で起こした下絵を描き、複数の版木を制作して刷っています。1枚の絵で、平均して30回くらい重ねているとされています。

奥村 この微妙なグラデーションは、最終のイメージが脳裏にあって、レイヤーの重ね方をよほど計算しているからこそ、表現できるのでしょうか。おそらく同じ版木で、色を変えながら刷っているような感じがします。それにしても30回も重ねているとは思えない透明感。

忠 吉田は油絵も描きますが、山の絵はほとんど版画ですね。

奥村 油絵だと迷宮入りするからかな？この空気がキーンと澄んだような透明感を表現するのに、版画がよかったのかもしれないですね。

忠 明治末期から大正時代には、版画の美術的な価値を高めるために、描く・彫る・摺るすべての工程を作者が行う「創作版画運動」が起きましたが、吉田はそれとは異なるアプローチで従来の浮世絵

版画の分業制を用いながらより完成度を高める「新版画」を志していました。完璧主義で知られているので、職人さんたちを細かく監督していたはずですよ。

奥村 そして最後にこの煙の部分だけ輪郭なしで摺り入れているあたり、本当に巧み！

忠 エッセイに「近頃はスポーツ登山などが流行っているが、自分は美を愛するために登っているのだ」というようなことを書いています。この絵を見ていると、その言葉を思い出しますね。

米村 分かります。トレイルランニングをしている人たちは、サッと通り過ぎてしまっていますが、私はもったいない!って思うんです(笑)。雲も花も木も、すてきなものがたくさんあって、どれも見過ごせない。

奥村 本当は日常生活でも山でも、等しく見えているものはあるのだけど、山では雑音が少ない分、感覚が鋭くなって見えやすく聞こえやすくなる感覚がありますね。私は制作をするので稜線の形を簡単にスケッチするのですが、後でそのラインをたどっていると、身体の中に残った感覚が蘇る感じがするのですよね。

米村 初めて屋久島で登山をした時に、こんなことがありました。うれしくてパシャパシャとたくさん写真を撮っていると、傘をさして座り込んで絵を描いている女の子がいました。聞いてみると、一日そこで木を描いていたそう。その時に、ああこの子の身体には、ここの空気や時間がたくさん染み込んでいるのだろうなと感じて、やみくもに撮影していたことにちょっと罪悪感が生まれました。もちろん帰って見ると、写真でも楽しかったことは思い出せるんですけど(笑)。

奥村 日本アルプスを描いた他の作品もいいですね。九州の山ではないなと感じるのが、森林限界を越えて、地を這うような植物だけになった景色を描いているところ。大地の始まりを感じるようで、こういう景色が現れてくるのが、私はとても好きです。

吉田博

学芸員と、
みてはなし。

見る人によって、様々な感じることができるのが、美術作品のおもしろさの一つです。今回は、明治から昭和にかけて活躍した版画家・洋画家の吉田博(1876-1950)の作品を、学芸員と、ふだんから山登りを趣味としている2人が、見て話します。



日本アルプス十二題 五色原

米村 雲をしっかり描いているのが、やっぱり登っている人の絵だなと思います。《日本アルプス十二題 五色原》の中央に立ち上る雲なんて、これからの荒天を予感して「怖い!」と思っちゃう。



日本アルプス十二題 鷲羽岳の野営

奥村 自然と人間の対比もおもしろいです。あくまでも自然の中に少しの間お邪魔している感じ。《日本アルプス十二題 鷲羽岳の野営》も、人が入ることによって数百年数千年変わらない景色がここにあったことを感じますね。いま私たちがここに行ったら、この景色の中に入ることができる。

忠 確かに、景色の中の人の存在感はいいですね。実は吉田は人を描くのが得意ではなかったようで、東京の風俗を描いた作品もあるのですが、それはあまりよくない(笑)。

米村 それにしても、吉田博にはお礼を言いたいです。「山にいる時の、あの感覚を絵にして残してくれてありがとう」って。

忠 お話を聞いていて、私も山に登りたくなりました。



奥村完奈さん
山に登りつつ、
銅版画制作を行う。

「ちょっとお話を聞いてもいいですか？」 来館者にインタビュー



Q1 今日はどこから、なにをしに？

Q2 印象に残った作品は？

Q3 当館の感想を教えてください

Q4 あなたとアートのふだんの接点は？

田川雅美さん

田川礼さん

①春日市から、ファミリー DAY に参加しに
来ました

②《南瓜》はやっばり好きです。長野の美
術館にも草間彌生さんの作品を見に行ったんですよ

③今日のイベントは、娘もとても楽しんでいます。「ぬってみよう！はってみよ
う！」では、毛糸を虫に見立てて、物語をつくっていました

④娘は、1日のほとんどの時間を絵を描いて過ごしています。この時もブツ
ブツとお話をつぶやきながら描いているので、本当に好きみたいです



富岡諒さん

富岡愛さん

中村千夏さん



小林明美さん

①中央区から「仙厓一小西コレクション」展
を見に来ました

②《箱崎図》や《玉せせり図》などの福岡に
関係する絵に興味深かったです。仙厓さんが
いた当時から変わらないものと、今は違う
ものがあるのがおもしろくて。「犬は昔もキャ
ン！と鳴くのだな」とか(笑)(明美さん)



小林秀子さん

本多浩子さん

①大濠公園日本庭園で行われる、福
岡市民大茶会の前に、レストランを利用しに
来ました

②今日は作品を見ていないのですが、
改装前に行われた「藤田美術館の至宝 国
宝曜変天目茶碗と日本の美」展が印象に
残っています(本多さん)

④お茶というのは、日本の美意識が行
き渡った総合芸術の一つだと思います。
お茶というのは、心を無にできる
時間。これは美術を鑑賞している時の
感覚と、とても近いと思います(中村
さん)

開館40周年の記念日だった11月3日(日・祝)。
ファミリー DAY 真只中のおえ、3連休の中日というところで、
当館も多くの人で賑わいました。
訪れていた来館者の方にお話を伺いました。

西村大さん

西村真智子さん

西村拓也さん



①岡山から、サルバドール・ダリ《ポルト・リガトの
聖母》を見に来ました

②ダリはもちろんよかったです。初めて見た九
州派の作品が印象的でした。アスファルトや釘のよ
うなのが使われていて、地域柄、炭鉱が多いのが
関係あるのかな?などと考えながら鑑賞しました

④岡山に住んでいるので、瀬戸内国際芸術祭など
に行く機会も多く、現代美術を見るのが好きです

松本いづみさん



梅津教孝さん

梅津朋子さん



①城南区から。公園を歩いていたら、「仙厓一小西コレク
ション」展があるのを知って立ち寄りしました

②仙厓の《猪図》のユーモラスさがよかったです。そ
このけそこのけと言っているようなイノシシですね(教孝
さん)。仙厓の《花見図》は、陽気な感じがすてきでした
(朋子さん)

③リニューアルして、ミュージアムショップが大きくなって
楽しく選べるようになりましたね(教孝さん)

尾方孝志朗さん

尾方淳子さん



①東区から、「ギュスターヴ・モロー展 サロメと宿命の女たち」を目的に
来ました

②東光院の仏像群が好きです。心を鎮
めたい時に、よく拝見しにきます。リ
ニューアルで仏像の神々しさが増した
ような気がします。撮影 OK なのもう
れしいですね、撮影しがいがあります

④折に触れて、自分自身のスイッチを
切り替えるために、美術館や博物館に
足を運びます。空間そのものも、自分
により影響を与えてくれるように感じ
ます

のだゆきこさん



のだみつきちゃん

のだちひろちゃん

①糟屋郡から、ファミリー DAY の「初めてのベビーカーツアー」に
来ました

②娘が、アニッシュ・カプーアの《虚ろなる母》に驚いていました。最初
に「まんまる!」と言って近づいた後、「あれ?穴が開いてる?」と見え方の変
化に気づいたようでした。角度や光によって違って見える様子が、とても
不思議な作品です

③リニューアルによって大濠公園から入りやすくなり、開放感が気持ちいい
美術館になりました

④独身の頃は、日本各地の美術館へ行っていました。最近は子育てに
忙しくて。そこで家族に読んでもらうために、自分で文章と絵を書いて「子
育て新聞」を作っていました。自分自身のリフレッシュにもなるんですよ

LECTURE / FEATURE

つきなみ講座

January-March 2020

毎月1回、当館館員が、自身の仕事、展示、研究、関心ごとについて語ります。聴講無料。直接会場にお入りください。

「灯明ウォッチングに見る技術とその展開～最近の事例を制作者の立場から～」

- ◆日時 **1/18** 15:00～16:00
- ◆会場 レクチャールーム(定員 54名)
- ◆講師 徳永昭夫(国際渉外担当)



2009年9月コレクション/コネクション展「灯明ウォッチング in 福岡市美術館」より

第6回いきヨウヨウ講座 「自分色をつくる」

「色」をテーマに、絵を見た後に、自分の気分にぴったりくる色の絵具をつくります。



昨年のいきヨウヨウ講座の様子

- ◆日時 **2020年 3/15** 10:00～13:00
- ◆会場 アートスタジオ、コレクション展示室
- ◆講師 加藤隆之(福岡教育大学准教授)
- ◆対象 60歳以上の方ならどなたでも
- ◆定員 20人(応募多数の場合は抽選)
- ◆参加費 無料(ただし、コレクション展観覧料が必要です。福岡市、北九州市、鹿児島市、熊本市在住の65歳以上の方はコレクション観覧料も無料です)

◆応募方法
往復はがきかメールにて。代表者の住所・電話番号と参加者全員の氏名、生年月日、メールの場合は代表者のメールアドレスをお書きの上、下記までお送りください。締切は3月1日(日) 必着。

◆宛先
〒810-0051 福岡市中央区大濠公園1-6
福岡市美術館「いきヨウヨウ講座」係
workshop@fukuoka-art-museum.jp

福岡市美術館ミュージアムイベント協賛企業・団体 /



2月

「R1と美術館 ～画期的に新しい一年～」

- ◆日時 **2/15** 15:00～16:00
- ◆会場 レクチャールーム(定員 54名)
- ◆講師 中山喜一郎(館長)



リニューアルオープン取材の様子

「美術館の教育活動を知っていますか？ エデュケーションからラーニングへ」

- ◆日時 **3/28** 15:00～16:00
- ◆会場 レクチャールーム(定員 54名)
- ◆講師 崎田明香(学芸員 教育普及担当)



11月の「ファミリー DAY2019」で行った「初めてのペーパーカーツアー」の様子

ファミリー DAY2019 レポート



11月2日のワークショップ「わくわく立休でつくる絵の世界」

11月3日の開館記念日に合わせ毎年開催している「ファミリー DAY」。今年は11月2日から4日に開催しました。期間中は館内各所で、子どもから大人まで美術・美術館をより身近に感じていただける鑑賞や制作プログラムを実施しました。2日に実施したワークショップでは一つの絵を鑑賞したあと、その中から好きなかたちを選び、そのかたちの重さや手触りを想像し、いろいろな素材を使って自由に作品を作りました。参加者の制作の眼差しは真剣そのものです。多くの来館者に恵まれ盛況のうちに終えることができました。ご参加いただいた皆様、またご協力頂いた皆様、ありがとうございます。次回もお楽しみに。(学芸員 教育普及担当 上野真歩)

REPORT

荒木氏からは、アフリカンプリントが実はアフリカでは作られていないことを挙げ、シヨニバレ氏の美しい作品の中に、植民地主義やアフリカらしさというイメージに対する批判があること、それこそが作品の魅力であり、作品とつながること、自分自身の固定観念を

らしい街のシンボルとして設置されることを話しました。シヨニバレ氏は、アフリカンプリントが実はアフリカでは作られていないことを挙げ、シヨニバレ氏の美しい作品の中に、植民地主義やアフリカらしさというイメージに対する批判があること、それこそが作品の魅力であり、作品とつながること、自分自身の固定観念を



インカ・シヨニバレ CBE 大型屋外彫刻作品《ウィンド・スカulptチャー (SG) II》(設置イメージ)

の繋がりを作品と持ち続けて行くことができるように、美術館はもっと「開かれる」べきではないか、ということ。簡単なようでなかなかハードな宿題です。二〇二〇年度にお目見えするこの素晴らしい作品を、守り、開くという美術館の覚悟を試された二時間半でした。その覚悟が実行されるか？みなさん、ぜひ、見守っていただきたいと思います！

(主任学芸員 鬼本佳代子)

が自分のやり方で作品と繋がりが、新たなコミュニケーションが生まれることが示唆されました。後半は、地元ラジオで活躍する三好剛平氏(伊藤総研株式会社)をファシリテーターに迎えてのパネルディスカッションです。キーワードになったのは「守る」と「開く」。つまり、良い状態で見せ続けるために、費用と人材育成も含めてメンテナンスを継続し、かつ人々に忘れられないように「守る」こと。そして、人々が各々のやり方で、各々の繋がりが、新たなコミュニケーションが生まれることが示唆されました。後半は、地元ラジオで活躍する三好剛平氏(伊藤総研株式会社)をファシリテーターに迎えてのパネルディスカッションです。キーワードになったのは「守る」と「開く」。つまり、良い状態で見せ続けるために、費用と人材育成も含めてメンテナンスを継続し、かつ人々に忘れられないように「守る」こと。そして、人々が各々のやり方で、各々の繋がりが、新たなコミュニケーションが生まれることが示唆されました。



福岡市美術館開館40周年記念シンポジウム 「インカ・シヨニバレ CBE のパブリックアートと福岡」

リニューアルオープン時にも話題になった「インカ・シヨニバレ CBE: Flower Power」展。このたび、シヨニバレ氏の大型屋外彫刻作品《ウィンド・スカulptチャー (SG) II》が、当館40周年と福岡市制施行130周年を記念して新アプローチに設置されることになりました。そこで、昨年十一月三日(日)の作品を題材に、シンポジウムが開催されました。登壇したのは、荒木夏実氏(東京芸術大学准教授)、山出淳也氏(BEPU PROJECT代表理事)そして当館学芸課長の岩永悦子です。

払拭し、自分も社会も変えることができるかと語られました。そして山出氏からは、パブリックアートを、人々の日常の近くに置くことで、地域の人々

FFG資産づくり応援キャンペーン

期間 2019年11月18日(月)～2020年3月31日(火)

期間中、対象商品を30万円以上、新規資金で一括購入いただくと

もれなく全員にご購入額×0.3%の現金プレゼント!!

対象商品 投資信託 ファンドラップ

新規資金とは) 期間中の「対象商品の購入合計金額」から「対象商品を解約した合計金額」を引いた金額になります。

※「投資信託」「ファンドラップ」は、市場動向等により投資元本を割り込むおそれがあります。※ご検討にあたっては、「商品パンフレット」「契約締結前交付書面」および「目論見書」等の書面の内容を十分にお読みください。【商号等】株式会社 福岡銀行(登録金融機関)【登録番号】福岡財務支局長(登金)第7号【加入協会】日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会

詳しくは右記までお問い合わせください。 0120-788-324 携帯からもOK! 資産運用 メニュー 4 ご相談 ぶくぎんホームページ ぶくぎん 検索

2019年11月1日現在

福岡銀行 FFG あなたのいちばんに。 ぶくおかフィナンシャルグループ

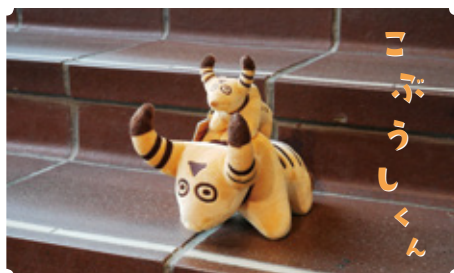
CALENDAR

TIPS

おまけ美術館

福岡市美術館をもっと楽しむための、
うれしい小さな情報を
取り上げます。

美術館を訪れる楽しみの一つに、ミュージアムショップを覗くこと、という方も多いのでは？ 当館ミュージアムショップでは、たくさんのオリジナルグッズを販売しています。



エスプラナード 195 号（2019 年 3 月発行号）でも取り上げた「こぶうしくん」をモチーフにしたマスコットや、当館が所蔵する高取焼を現代の窯元が蘇らせた「写し」、仙厓が描いた虎や藤田嗣治の猫をモチーフとしたキュートな博多人形などなど。さらに定番のポストカードやクリアファイルも豊富に揃っていて、展示を見たときの「この作品を持って帰りたい！」という気持ちを満たしてくれるはず。

また、12 月まで開催していた企画展「仙厓一小西コレクション」にあわせて誕生した、マグネットや缶バッジ、トートバッグなどの、ユーモラスな仙厓さんグッズは展覧会終了後も販売しているのでぜひお手にとってご覧ください。

新年にはオリジナル商品を詰め合わせた「福袋」を数量限定で販売予定です。中身は買ってからの楽しみ！新年の運試しにいかがでしょうか。



特別展示室	コレクション展示室 近現代美術			コレクション展示室 古美術		東光院 仏教美術室
	近現代美術室 A	近現代美術室 B	近現代美術室 C	企画展示室	松永記念館室	
開催中・1/19 不思議の国のアリス展	開催中・1/26 近代美術と九州 第3期	開催中・1/13 梅田哲也 うたの起源	開催中・4/19 コレクションハイライト② 1945年以降の現代美術	開催中・2/2 青と白の華やぎー染付	開催中・2/2 線の子カラ	通期 東光院のみほとけ
1/28・3/22 大浮世絵展ー歌麿、写楽、北斎、広重、国芳 夢の競演	1/28・4/19 近代美術と九州 第4期	1/17・4/19 朝倉文夫・撰・響子	1/17・4/19 朝倉文夫・撰・響子	2/4・4/12 近世絵画名品展	2/4・4/12 茶道具の「次第」	
3/31・4/12 第51回福岡市美術館		1/17・4/19 渡辺千尋				

本誌掲載の催しは当館主催のものです。他の催しやイベントの詳細は、当館ウェブサイト随時お知らせします。また、催しの名称、会期などは変更となる場合がございます。

ふくおか応援寄付

ふくおか応援寄付

福岡市美術館が魅力的であり続けるためには、今後とも機会あるごとに美術品を収集することが不可欠であり、そのための資金として皆さまから「ふくおか応援寄付」（ふるさと納税による寄付）を募集しています。

10万円以上ご寄付いただいた方には、特別企画展開会式の招待状（1年分）を、また、福岡市外にお住まいの方で一定額以上の寄付をされた方には福岡市の特産品をお送りします。

みなさまからの応援をお待ちしています！

利用案内

開館時間 9:30～17:30

（7月～10月の金・土曜日は9:30～20:00）

※入館は閉館の30分前まで。

休館日

月曜日 / 年末年始（12/28～1/4）

※月曜日が祝日・振替休日の場合は

その後の最初の平日

〒810-0051 福岡市中央区大濠公園1-6

TEL 092-714-6051（代表） FAX 092-714-6071

www.fukuoka-art-museum.jp

福岡市美術館
FUKUOKA ART MUSEUM

